



令和5年度

第1学年学習案内

学校の教育目標

1 自ら学ぶ生徒 2 人を導ぶ生徒 3 自ら鍛える生徒



寄居町立寄居中学校

1年 組 番 氏名

目 次（１年）

寄居中の学習案内に寄せて	
学習案内とは・授業の概要	
年間行事計画	
国語	
社会	
数学	
理科	
音楽	
美術	
保健体育	
技術・家庭（技術分野）	
技術・家庭（家庭分野）	
英語	
評価・評定について	

寄居中の学習案内に寄せて

校長 岡田 久志

学校における教育は、国が定めた「学習指導要領」に沿って行われています。これには、次のことがわかりやすく書かれています。

- ・どの学年で
- ・それぞれの教科などで
- ・どんな内容のことを
- ・何時間学習するか

日本の小・中学生がどこに住んでいても同じ内容を学習し、教育における機会均等を確保し、水準の維持を目的としています。この学習指導要領は、平成18年に改訂された教育基本法に基づき、次の方針により構成されています。

- ①教育基本法の改訂等で明確になった教育理念を踏まえ「生きる力」を育成すること。
- ②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。
- ③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

日本の学校は、学習指導要領に基づいて教育課程（教育計画）が編成されます。平成29年3月に、総授業時数1,015時間は変わらないものの「特別の教科である道徳の授業時数」35時間が明記された次なる学習指導要領が告示されました。今年度は中学校の新学習指導要領の全面実施から3年目を迎え、その着実な実施が求められる中、これまでの学校研究の取組を礎に主体的・対話的で深い学びの実現に迫る授業づくりに取り組んでまいります。

さらに、第3期埼玉県教育振興基本計画（2019年度から2023年度まで）の基本理念「豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育」（誰もが参画しうる生涯を通じた多様な学びを実現し、自身の人生や社会の未来を切り拓く力を育成する）及び「令和5年度寄居町教育行政重点施策」により教育のあり方の方向性を見定め、子供たち生きる力の育成に向けた教育を推進する必要があります。

そこで、「夢と心をはぐくみ 未来を拓く寄居の教育」の基本理念のもと「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育を実施してまいります。寄居中学校では、改訂学習指導要領、埼玉教育の振興に関する大綱、令和5年度寄居町教育行政重点施策の趣旨を受け、年間の指導計画を立て、よりわかりやすく、より楽しく、深く学べる授業づくりに取り組んでまいります。特に、毎時間の授業の目標（ねらい）を明確にし、目標を達成するための学習課題を明示してまいります。そして仲間と学び合ったり、振り返り活動を重視した授業を積み重ねたりしていくことで、学力向上を図ってまいります。

この「学習案内」によって、各教科で学習する予定の時間、内容、そして評価の観点などをあらかじめお知らせしますので参考にしてください。そして、是非ともただ単に知識のみを習得するだけにとどまらず、生徒の皆さん自身が学年や学級の友達と活発に意見交換をしたり、協働して課題を発見し、解決したりするなどの「主体的・対話的で深い学び」を実現するための参考にさせていただきたいと思います。その結果、思考力、判断力、表現力等は鍛えられ、必ず学力は向上していきます。これこそが、まだ誰も正解を知らない難しい問いに向き合って解決していく力が求められる時代の到来に対応できるものと考えます。是非ご活用いただきますようお願いいたします。

【学習案内（シラバス）とは】

学習案内とは、生徒が寄居中学校で受ける授業、評価などについて、わかりやすく説明した授業計画のことをいいます。

寄居中学校の学習案内（シラバス）は、各教科ともおおむね次のように構成されています。

- 1 学習のねらい（目標）
- 2 学習の心構え
- 3 授業計画（学習内容と学習のねらい）
- 4 評価（今年度は、巻末にまとめて掲載してあります）



寄居中学校の教育活動にご理解いただき、お子様の学習活動について、ご理解支援いただけると幸いです。

【授業の概要】

寄居中学校は、3学期制です。

定期テストは、1学期（中間テスト、期末テスト）

2学期（中間テスト、期末テスト）

3学期（期末テスト）

の年5回になります。

保健体育と数学、1，3年の英語ではティームティーチングや少人数による指導を、特別の教科 道徳 ではローテーション授業を行うなど工夫した授業を行っています。

（１）寄居中学校の授業（教科等配当時間数（週時間））

＜第1学年週時数＞

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計	
													週計	全体計
時間配当	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015	
	4	3	3	4	1.3	1.3	3	2	4	1	1	1.4	29	1015

＜第2学年週時数＞

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計	
													週計	全体計
時間配当	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015	
	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29	1015

＜第3学年週時数＞

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計	
													週計	全体計
時間配当	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015	
	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29	1015

※ 1 年の総合的な学習の時間、音楽、美術における 3 5 週の割り振りは、以下の通り

	A 週（10 週）	B 週（15 週）	C 週（10 週）
総合	10（週 1 時間）	30（週 2 時間）	10（週 1 時間）
音楽	20（週 2 時間）	15（週 1 時間）	10（週 1 時間）
美術	10（週 1 時間）	15（週 1 時間）	20（週 2 時間）

※A.C 週に、音楽・美術き合わせの授業を 1 時間設定する。

（２）総合的な学習の時間について

寄居中学校の総合的な学習の時間は 3 年間を見通した学習となっています。

学校テーマ『ふるさと寄居 総合学習』

学年	学 習 内 容	時数	担当
1 年	地域の中で（i n） 地域の中で、自ら疑問や課題を発見し解決する活動を通して、調べ方や学び方の基本的な資質や能力及び人間関係形成力等を育てる。	5 0	1 年職員
2 年	地域を通して（through） 地域の職場体験や上級学校訪問を通して自己を見つめる能力や将来を考える資質を育てる。	7 0	2 年職員
3 年	地域のために（f o r） 1，2 年生での学習を生かし、自己の生き方を見つめさせ、地域のために創造的に行動できる能力や態度を育てる。	7 0	3 年職員

（３）特別の教科 道徳 について

教科化された道徳では、「道徳の教科書」を使い授業を行っていきます。

＜各学年の学習内容＞

学年	学 習 内 容	担当
1 年	・ 望ましい生活習慣、正しい判断力、目標に向かって最後までやり抜く態度。 ・ 相手の立場を理解し、思いやりの心を持って接する態度。 ・ 自己の役割を自覚し、協力しあって集団の向上に努める態度。	1 年職員
2 年	・ 自主・自律の精神を重んじ、他者の立場を理解しながら、個性の伸長を図る態度。 ・ 互いに認め合い、相手の立場に立って考えられ、行動できる態度。 ・ 学校の一員としての自覚を高め、協力して学びの場にふさわしい学級・学校の環境作りを行う態度。	2 年職員
3 年	・ 個性を生かし強い意志を持って創造的に人生を切り開く態度。 ・ 命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、思いやりの心を持って信頼しあえる人間関係を築ける態度。 ・ 豊かで健全な人間関係を築き、よりよい秩序と規律のある社会の実現を目指す態度。	3 年職員

(保護者・生徒用)
寄居町立寄居中学校

令和 5 年度年間行事計画 No1

2023年4月10日 現在

4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	土	より・E春塾（4月28日まで）	1	月	ネットマナー講座（1，2，3年）	1	木	耳鼻科検診13:30～	1	土	学総代表決定戦	1	火		1	金	2学期始業式
2	日		2	火	全校朝会 体育祭学年練習 体育祭係別会議	2	金	中間テスト	2	日	学総代表決定戦予備日	2	水		2	土	
3	月		3	水	憲法記念日	3	土		3	月		3	木		3	日	第4回北辰テスト（3年）
4	火		4	木	みどりの日	4	日		4	火	期末テスト	4	金		4	月	給食開始 中三実力テスト① B日課 生徒会役員選挙公示日 立候補者受付期間 （9月6日まで）
5	水	部活動新顧問紹介	5	金	こどもの日	5	月	中間テスト	5	水	期末テスト	5	土		5	火	身体測定（1年）避難訓練②
6	木		6	土		6	火	生徒朝会（保健委員会）尿検査2次予備日	6	木	PTA交通安全指導 生徒会の日 期末テスト 第1回学校保健委員会	6	日		6	水	身体測定（2年）
7	金	新3年準備登校	7	日		7	水	尿検査2次予備日	7	金	3年進路説明会	7	月		7	木	PTA交通安全指導 身体測定（3年） 生徒会の日 3年生性教育講演会 大里地区中学校英語弁論大会
8	土		8	月	歯科健診（全学年）8:50～12:40	8	木	PTA交通安全指導 生徒会の日	8	土		8	火		8	金	生徒会選挙立候補者説明会
9	日		9	火		9	金		9	日		9	水		9	土	第1回資源回収
10	月	第35回入学式(午前) 始業式(午後) 時間割A週 部活なし	10	水	食育の日 給食なし 弁当持参 体育祭全体 練習	10	土		10	月		10	木		10	日	發明創意工夫展（一般公開）
11	火	給食なし（3時間授業） 部活なし	11	木	体育祭予行（1,2） PTA交通安全指導 生徒会の日	11	日		11	火		11	金	山の日 サマーサマーフレッシュウィーク （8月16日まで）	11	月	選挙期間開始（10月13日まで）
12	水	給食開始 身体測定（全学年） PTA新旧理事会 完全下校18：00に移行	12	金	体育祭準備（5,6） 埼玉県学力・学習状況調査（CBT）	12	月	職員研修⑥	12	水	2年租税教室	12	土		12	火	生徒朝会（生徒会）
13	木	新入生を迎える会(6) 部活動見学① 部活あり	13	土	第35回体育祭	13	火	全校朝会	13	木	期末短縮①（5）支援担当訪問	13	日		13	水	音楽会実行委員会
14	金	eライブラリ・スカイメニュー年次更新および タブレット保管場所入れ替え(6) 生徒会 の日①(委員長等選出・活動計画) 部活なし	14	日		14	水	生徒総会リハーサル 通信陸上県大会	14	金	期末短縮②（4）	14	月	日直を置かない日	14	木	眼科検診
15	土		15	月	振替休業日（5月13日）	15	木	生徒総会（5,6） 通信陸上県大会	15	土		15	火	日直を置かない日	15	金	
16	日		16	火	体育祭予備日	16	金	教育実習終了	16	日	第3回北辰テスト（3年生）	16	水	日直を置かない日	16	土	
17	月	部活動見学② 避難訓練① 尿検査1次	17	水	部活動保護者会（全体・各部）	17	土		17	月	海の日	17	木		17	日	
18	火	全国学力学習状況調査（国、数、英） 尿検査1次 仮入部① 内科検診1年生 13：20～	18	木	通信陸上 ふれあいデー	18	日	第2回北辰テスト（3年）	18	火	給食終了 期末短縮③（4）	18	金		18	月	敬老の日
19	水	仮入部②	19	金	通信陸上	19	月	学総（硬式テニス）	19	水	期末短縮④（3）	19	土		19	火	学年朝会
20	木	ふれあいデー	20	土	通信陸上予備日 町P総会・懇親会	20	火	学年朝会 学総予備日（硬式テニス）	20	木	終業式 部活なし ふれあいデー	20	日		20	水	新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会（陸上）
21	金	内科検診2年13：20～ 仮入部③3年全 学調英語「話すこと オンライン」試験日 全学調質問紙（オンライン）	21	日		21	水	ふれあいデー	21	金	夏季休業日 3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）	21	月		21	木	新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会（陸上） 予備日 ふれあいデー
22	土		22	月		22	木	学校総合体育大会大里・深谷地区予選会中心日 給食なし	22	土	学総陸上県大会	22	火		22	金	
23	日		23	火	生徒朝会（生徒会）貧血検査14:00～ 尿検査2次	23	金	学校総合体育大会大里・深谷地区予選会中心日 給食なし	23	日	学総陸上県大会	23	水		23	土	秋分の日
24	月	学校運営協議会①（寄居小） 尿検査予備日	24	水	修学旅行事前指導 尿検査2次	24	土	学校総合体育大会大里・深谷地区予選会中心日	24	月	3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）	24	木	寄居町・深谷市中学生英語弁論大会	24	日	
25	火	生徒朝会①（体育委員会）内科検診3生13：20～ 仮入部④ 尿検査予備日	25	木	3年修学旅行（京都・奈良）	25	日	学校総合体育大会予備日	25	火	3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）	25	金		25	月	学年会
26	水	交通安全教室(13:45～15:35・5限全校6限1年) 1年本入部	26	金	3年修学旅行（京都・奈良）	26	月	職員会議⑥	26	水	3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）	26	土		26	火	
27	木	心電図検査（13:30） 部活なし PTA交通安全指導	27	土	3年修学旅行（京都・奈良）	27	火	学総（水泳）学校運営協議会②（桜沢小） 3校合同活動①（あいさつ・花植え）	27	木	3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）	27	日		27	水	
28	金	授業参観（5校時）・学級懇談 P T A 総会 3年生修学旅行説明会 部活なし	28	日		28	水	学校総合体育大会（陸上）	28	金	3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）	28	月		28	木	新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会中心日 給食なし
29	土	昭和の日	29	月	3年振替休業日 教育実習開始	29	木	学校総合体育大会（陸上） 予備日	29	土		29	火		29	金	新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会中心日 給食なし
30	日	第1回北辰テスト（3年）	30	火	学年朝会	30	金	学校総合体育大会（陸上） 予備日	30	日		30	水		30	土	新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区 予選会中心日
			31	水					31	月	3者面談（3年） 家庭訪問（1,2年）	31	木				
15日			20日			22日			13日			0日			20日		

(保護者・生徒用)

寄居町立寄居中学校

令和 5 年度年間行事計画 No2

2023年4月10日 現在

10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	日	第5回北辰テスト(3年) 新人兼県民総合スポーツ大会大里・深谷地区予選会予備日	1	水	中三実力テスト③ 三者面談② 完全下校 16:45に移行	1	金		1	水	PTA交通安全指導 生徒会の日 1年生性教育講演会
2	月	全校朝会 最終下校時刻 17:15に変更	2	木	三者面談③ PTA交通安全指導	2	土		2	金	1, 2年授業参観・学級懇談
3	火	中三実力テスト②	3	金	文化の日	3	日	第7回北辰テスト	3	土	
4	水	小学校親善運動会 新人戦(硬式テニス)	4	土	駅伝県大会	4	月	3年素点交換 全校朝会(人権)後期 人権週間 職員会議 生徒朝会(人権)	4	日	
5	木	小学校親善運動会予備日 PTA交通安全指導 新人戦(硬式テニス) 予備日	5	日	第6回北辰テスト(3年)	5	火		5	月	3年学年末テスト 学年会
6	金	新人戦陸上県大会代表者会議	6	月	三者面談④	6	水	素点交換	6	火	3年学年末テスト
7	土	新人戦代表決定戦	7	火	全校朝会 三者面談⑤	7	木	PTA交通安全指導 薬物乱用防止教室	7	水	3年学年末テスト 県公立高校出願日(郵送)
8	日	新人戦代表決定戦予備日	8	水	三者面談⑥	8	金	第2回調査書等作成委員会 資源回収事前指導	8	木	開校記念日 県公立高校出願日(持参)
9	月	スポーツの日	9	木	三者面談⑦	9	土	第2回資源回収	9	金	県公立高校出願日(持参)
10	火	全校朝会 教育実習開始 中間テスト(2教科)	10	金	給食なし 食育の日(家庭での食育の日)	10	日		10	土	
11	水	陸上部駅伝選手内科検診 13:20~ 中間テスト(3教科) 立会演説会リハーサル	11	土		11	月		11	日	建国記念日
12	木	新人戦陸上県大会	12	日		12	火		12	月	振替休日
13	金	新人戦陸上県大会	13	月		13	水		13	火	全校朝会
14	土		14	火	県民の日	14	木	生徒会の日 ふれあいデー	14	水	県公立高校志願先変更日
15	日		15	水		15	金	新入生説明会(5) 部活動見学(6)	15	木	県公立高校志願先変更日 完全下校 5:30に移行
16	月	学年会 立会演説会・選挙	16	木	埼玉県小中学校音楽会北部・東地区大会 ふれあいデー	16	土		16	金	
17	火	選挙結果発表 大里地区駅伝競走大会	17	金		17	日		17	土	
18	水	駅伝予備日	18	土		18	月	職員研修(4)	18	日	
19	木	素点交換 音楽会準備 ふれあいデー	19	日		19	火	期末短縮(4)	19	月	1, 2年期末テスト
20	金	校内音楽会	20	月		20	水	期末短縮(4) 給食終了	20	火	1, 2年期末テスト 県公立入試事前指導
21	土		21	火	生徒朝会(図書委員会)	21	木	期末短縮(3)	21	水	1, 2年期末テスト 県公立高校学力検査
22	日		22	水		22	金	2学期終業式	22	木	県公立高校実技検査および面接 ふれあいデー
23	月		23	木	勤労感謝の日	23	土		23	金	天皇誕生日
24	火	生徒朝会(任命式) 3校合同活動②(あいさつ・花植え)	24	金		24	日		24	土	
25	水	寄居町小中音楽会	25	土		25	月	私立高調査書配付	25	日	
26	木	生徒会の日	26	日		26	火		26	月	職員会議
27	金	教育実習終了	27	月	1, 2, 3年期末テスト(実技4科)	27	水		27	火	学年朝会
28	土		28	火	1, 2, 3年期末テスト(3教科)	28	木		28	水	
29	日		29	水	1, 2, 3年期末テスト(2教科)	29	金	休日	29	木	学校運営協議会④(寄居中)
30	月	職員会議	30	木	2年生性教育講演会 学校運営協議会③(用土小) 生徒会の日	30	土		30	火	全校朝会
31	火	学年朝会 三者面談①				31	日			日	
21日			19日			16日			18日		1, 2年 17日 3年 11日

国語（１年）

担当

1 学習のねらい

- (1) 言葉がもつ価値に気づき、言語感覚を豊かにし、国語を尊重し、国語能力の向上を図る。
- (2) 自分の考えを豊かにしたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりできるようになる。
- (3) 自分の考えを豊かにしたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書くことができるようになる。
- (4) 目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりできる。
- (5) 社会生活に必要な音声、語句、語彙、文法、漢字などについて理解し、適切に身につける。書写では、文字を正しく整えて速く書くことができるようになる。

2 学習への心構え

《約束》

- ① 復習をきちんとする。
- ② 授業の始まる前に授業の準備をし、チャイム着席を守る。
- ③ 発表は積極的にする。
- ④ 提出物は、丁寧に仕上げ必ず期限までに提出をする。
- ⑤ 授業では受け身にならず、課題に意欲的に取り組む。
- ⑥ 忘れ物は絶対にしない。
- ⑦ 発表者に体を向け、発表者の意見などをよく聴く。
- ⑧ ポイントを押さえ、工夫をしたわかりやすいノートをつくる。
- ⑨ ワークプリントはファイルに保管・整理をする。

《おすすめ事項》

- 話を聞きながら、メモをとる。
- 自分の考えを大切に、自信をもって発表をする。
- 他人の意見を尊重する。
- 分からないことがあったら、必ず質問する。（休み時間や放課後など）
- 様々なジャンルの本をたくさん読む。
- 新聞も積極的に読む。
- 辞書をたくさん引く。

3 学習教材

国語では、次の7つの教材を使います。

- (1) 教科書
- (2) 国語ワーク・文法ワーク
問題集です。宿題にするときもありますが、復習用なのでどんどん家で進めてください。 ※『国語ワーク』は定期テスト後に提出してもらいます。
- (3) ワークシート
先生がつくる授業プリントです。学習の手引きなどが書いてあります。
- (4) 国語便覧（置いていってよい）
- (5) 国語辞典（置いていってよい）
- (6) 単元テスト
どのくらい理解できたか確認する「確認テストのプリント」です。
- (7) ノート A4A罫（学校でまとめて注文します。）

4 評価計画と方法

(1) 観点別評価のつけ方

観 点	A B C の 基 準
知識及び技能	A：言葉の特徴や使いかたに関する学習課題、情報の扱いかたに関する課題等、言語文化に関する課題の評価平均がA○である。定期テストでの言語事項を試す問題・漢字テスト等の正答率が約90％以上である。 C：言葉の特徴や使いかたに関する学習課題、情報の扱いかたに関する課題等、言語文化に関する課題の評価平均がBに達していない。定期テストでの言語事項を試す問題・漢字テスト等の正答率が約40％未満である。
思考力、判断力、表現力等	A：話す・聞くについての学習課題、書くについての学習課題、読むについての学習課題の評価平均がA○である。定期テスト等の「聞き取りテスト」「作文テスト」の問題の正答率が約90％以上である。 C：話す・聞くについての学習課題、書くについての学習課題、読むについての学習課題の評価平均がBに達していない。定期テスト等の「聞き取りテスト」「作文テスト」の問題の正答率が約40％未満である。
学びに向かう力、人間性等	A：国語に対する興味・関心が高く、意欲的、主体的な態度で授業に取り組んでいる。全ての課題の平均がA以上。 C：国語に対する興味・関心が低く、意欲がない。学習課題・宿題等を全く、またはほとんど提出していない。

(2) 各観点の評価項目と評価の方法

観 点	評 価 項 目	評 価 の 方 法
知識及び技能	○音声、語句、語彙、文法、漢字、情報の扱いかた、古典の知識等、社会生活に必要な国語について理解し身につける。書写では、楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解し、字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮し、読みやすく速く書く。	◇指導過程では、教師による観察 ◇・定期テスト（言語に関する問題） ・確認テスト ・書写（硬筆・書きぞめ） ◇指導後では、自己評価・相互評価等
思考力、判断力、表現力等	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、筋道を立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりして表現する。	◇指導過程では、教師による観察 ◇・聞き取りテスト ・話し合い活動 ・発表（スピーチ、プレゼンなど） ・定期テスト（表現問題・読む力） ・課題作文テスト ・単元テスト ・作文 ・作品 ・ノート ・ワークシート ◇指導後では、自己評価・相互評価等
学びに向かう力、人間性等	○言葉がもつ価値を認識するとともに、話し合ったり工夫して書いたり、読書したりなど、進んで学びに向けた粘り強い取組を行い、その取組のなかで、自らの学習を調整しようとする。	◇指導過程では、教師による観察 ・チェックリスト ・応答・態度 ◇提出物では、 ・ノート ・作品 ・ワーク ・ワークシート ・振り返りシート ・授業内容の下調べ（語句調べ等） ◇指導後では、自己評価・相互評価等

5 本年度、特に力を入れて指導すること

学力検査の結果、また、本年度の学校研究課題から、国語の授業において以下のことを特に力を入れて指導します。

- (1) 1学年では、学年別漢字配当表と常用漢字の300～350字程度の漢字を読むことができるように指導します。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書け、文や文章の中で使うことができるように指導します。

* 漢字小テスト、確認・達成度テストなどを行います。漢字の宿題を出し、繰り返し学習します。

- (2) 文章の構成や展開をとらえて、内容を読み取ることができる力をつけます。

* ワークプリントを工夫したり、補充的な学習を行ったりし、汎用的な力が身につくよう、指導します。

- (3) 伝えたい内容や自分の考えを、はっきりとさせて書いたり話したりすることができる力を養います。

* 書く・話す手だてを示し、書く・話す機会をつくり、書くことや話すことに自信がもてるように指導します。

社会（１年）

1 学年 社会 授業時数 週 3 時間×3 5 週＝1 0 5 時間

地理・歴史分野の合計での履修時間となります。

地理分野の目標

- (1) 日本や世界において、どこに、どのようなものが、どう広がっているか、また、どんな規則や傾向が見られるかを確かめ、なぜそこで見られるのか、そこだけか、他の地域にも見られるのか、という地理的な見方や考え方を身につける。
- (2) 日本や世界の地域の特色を自然と人々の生活、他地域との結びつきなどを、どのように見だし、調べ、追究し、表現していくか、という視点や方法を身につける。
- (3) 日本や世界の諸地域は、いろいろな分け方ができ、その独特の性質と共通に見られる性質が関係し合っていること、さらに色々な条件によって複雑に変化していることを理解する。
- (4) 実際に地域を調べる中で、学習する地域の資料を集め、必要な部分を選び、上手に利用する力をつけ、主に地図を使って表現することができること。また、いろいろな面や角度から考える力を身につける。

歴史分野の目標

- (1) 日本の歴史の政治、産業、社会の様子、文化の特色などについて、他の時代と違う点や共通している点をつかみ、各時代の特色を理解する。
- (2) 社会や文化の発展、人々の生活の向上に尽くした人物について学び、その果たした役割や生き方を具体的に理解する。
- (3) 日本との歴史や文化の関わりを考え、他民族の文化、生活などに関心をもつ。
- (4) 身近な地域の歴史を調べることを通して地域の資料を集め、必要な部分を選んで活用し、いろいろな面や角度から考える力をつける。

地理分野の到達目標

- ・授業に積極的に取り組み、地理に対する関心を高め、意欲をもって学ぶ力をつける。
- ・日本や世界の色々な地域の特色を様々な面、色々な角度から考える力をつける。
- ・地図や統計など調査に必要な資料を集めてう

まく利用し、考えた流れや結果を地図にしたり、レポートにまとめる力をつける。

- ・日本や世界の特色を調べる上で必要な用語を理解し、身につける。

歴史分野の到達目標

- ・授業に積極的に取り組み、歴史に対する関心を高め、意欲をもって学ぶ力をつける。
- ・歴史上の人物・文化財の果たした役割について、様々な面、色々な角度から考える力をつける。
- ・歴史学習に必要な資料を集めてうまく利用し、考えた流れや結果を年表にしたり、レポートにまとめる力をつける。

評価方法

「通知票評価規準」に準じておこなう。

定期テスト、単元テスト、レポート、授業参加姿勢、提出物状況等を総合的に判断する。

3つの観点（知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）による観点別学習状況の評価を基本とし、目標をどれだけ達成できたかによって評価します。

評価は観点別評価を基本とし総合的に評価します。

学習上の注意・助言

- ・提出物の提出期限は必ず守る。
- ・他人の発表や発言はしっかり聞き、自分の考えははっきり言えるようにする。
- ・教科書などの基本的用語（太文字）は覚える。
- ・調べる時には、できる限りいろいろな資料を集め、その中から必要な部分を利用するようにする。
- ・レポートにする時は自分の予想，考えた流れ，利用した資料，結果という流れでまとめていく。また，他人が見て見やすい工夫をする。

な角度から考えるようにする。

家庭学習

- ・基本用語は書きながら覚える。
- ・教科書などで出てきた国名や地名は必ず地図帳で確認しておく。
- ・歴史上の出来事は年代を必ず覚えておく。

その他

- ・地理的分野と歴史的分野は 1 年生，2 年生を通して 2 年間で学習する。
- ・地理的分野と歴史的分野は单元ごとなどで入れ替えながら 2 年間で学習する。

年間授業計画

地 理		歴 史	
	单元名		单元名
1 学 期	第 1 編 世界のさまざまな地域 第 1 章 世界のすがた 第 2 章 世界各地の人々の生活と環境	1 学 期	第 1 章 歴史のとらえ方 第 2 章 古代までの日本 1 節 文明のおこりと日本の成り立ち 2 節 古代国家の歩みと東アジア世界
	第 3 章 世界の諸地域 1 節 アジア州 2 節 ヨーロッパ州 3 節 アフリカ州 4 節 北アメリカ州 5 節 南アメリカ州 6 節 オセアニア州		第 3 章 中世の日本 1 節 武士の台頭と鎌倉幕府 2 節 東アジア世界とのかかわりと社会の変動
3 学 期	第 2 編 日本のさまざまな地域 第 1 章 日本のすがた 第 2 章 世界から見た日本のすがた 1 節 世界から見た日本の自然環境 評価などの予備時間	3 学 期	第 4 章 近世の日本 1 節 ヨーロッパ人との出会い と全国統一 評価などの予備時間

使用教材

教科書	新しい社会 地理・歴史（東京書籍）	地図帳	中学校社会科地図（帝国書院）
資料集	アクティブ地理（浜島書店）	ワーク	地理の完全学習 1（正進社）
	つながる歴史（浜島書店）		歴史の完全学習 1（正進社）

数学（１年）

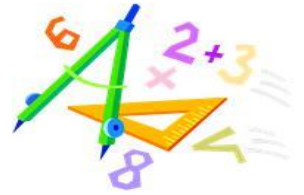
1 学習の目標

数学科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 数学編』より



2 学習の心構え

授業では

- ①授業は、学習の基本です。先生の説明や生徒の発表をよく聞き、しっかりと理解していこう。
- ②ノートをとることは大切なことです。しかし、きれいにまとめることだけに集中せず、じっくりと考えることが大切です。
- ③疑問に思うことやわからないことは、進んで質問しましょう。
- ④失敗を恐れず、挙手や発言を多くし、自分から進んで学習に参加しよう。
- ⑤学習したことの振り返りをし、どんな考えをしたか。どのように問題解決をしたかを、「学びの足跡」に記入しよう。

家庭学習では

○継続は力なり

計算問題を繰り返し行い、基礎学力を身につけるなど復習に力をいれよう。

○粘り強く取り組もう

まずは、じっくりと考えよう。分からない問題も5分は考えるようにしよう。

○わかるころまで戻ろう

数学は、積み重ねの教科です。分からなくなったら、分かるころまで戻り、また、分かるころから一歩ずつ取り組もう。

3 評価の観点及びその趣旨と評価の方法

評価の観点	趣旨	評価の方法
(1)「知識・技能」の評価について	・正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や 原理・法則などを理解している。 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	単元テスト 定期テスト
		取り組みの様子
(2)「思考・判断・表現」の評価について	数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身に付けている。	単元テスト 定期テスト
		取り組みの様子
(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価について	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。	学びの足跡
		取り組みの様子 ノート ワーク

4 学習する内容や学習のねらい

月	節	目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5 6	1章 正の数・負の数 (26)	正の数・負の数について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・正の数と負の数の必要性和意味を理解することができる。 ・正の数と負の数の四則計算をすることができる。 ・具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。 ・数の集合と四則計算の可能性を理解することができる。 ・自然数を素数の積として表すことができる。	・算数で学習した数の四則計算と関連づけて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 ・正の数と負の数を具体的な場面で活用することができる。	・正の数と負の数のよさに気づいて粘り強く考え、正の数と負の数について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、正の数と負の数を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりすることができる。
7 8	2章 文字の式 (17)	文字の式について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・文字を用いることの必要性和意味を理解することができる。 ・文字を用いた式における積と商の表し方を理解することができる。 ・簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。 ・数量の関係や法則などを文字を用いた等式や不等式に表すことができることを理解し、文字式を用いて表したり、文字式を読み取ったりすることができる。	・具体的な場面と関連づけて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。	・文字を用いることのよさに気づいて粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりすることができる。
9 10	3章 方程式 (16)	方程式について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解することができる。 ・簡単な方程式、比例式を解くことができる。	・等式の性質を基にして、方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・方程式、比例式を具体的な場面で活用することができる。	・方程式のよさに気づいて粘り強く考え、方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、方程式を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりすることができる。
11	4章 変化と対応 (18)	比例、反比例について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・関数関係の意味を理解することができる。 ・比例、反比例について理解をすることができる。 ・座標の意味を理解することができる。 ・比例、反比例の関係を表、式、グラフに表すことができる。	・比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・比例、反比例を用いて、具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	・比例、反比例のよさに気づいて粘り強く考え、比例、反比例について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、比例、反比例を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりすることができる。
	5章 平面図形 (18)	平面図形について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・平行移動、対称移動及び回転移動について理解することができる。 ・角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的	・図形の移動に着目し、2つの図形の関係について考察し表現することができる。 ・図形の性質に着目し、	・平面図形の性質や関係を捉えることのよさに気づいて粘り強く考え、平面図形について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、作

12		ける。	な作図の方法を理解することができる。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 ・図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。	図や図形の移動を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりすることができる。
1	6章 空間図形 (19)	空間図形について、数学的活動を通して、次の事項を身につける。	・空間における直線や平面の位置関係を理解することができる。 ・基本的な柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。	・立体を線分や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり、立体を平面上に表現して、平面上の表現から立体の性質を見いだしたりすることができる。 ・立体の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。	・空間図形の性質や関係を捉えることよき気づいて粘り強く考え、空間図形について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、空間図形の性質や関係を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりすることができる。
2					
3	7章 データの活用 (12)	データの活用について、数学的活動を通して、次の事項を身につけさせる。	・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解することができる。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解することができる。	・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、表現することができる。	・ヒストグラムや相対度数などのよき気づいて粘り強く考え、データの分布について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりすることができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率のよき気づいて粘り強く考え、不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりすることができる。

3 数学科におけるアクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングとは、主体的・対話的で深い学びのことを指します。具体的に数学科においては、以下のような活動です。

ア 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだす活動

例) 符号の異なる2数の加法の計算の仕方を見いだす活動 など

イ 日常生活で数学を利用する活動

例) ヒストグラムや代表値などを利用して、集団における自分の位置を判断する活動 など

ウ 数学的な表現を用いて、自分なりに説明し伝え合う活動

例) 直線上の1点を通る垂線をひく作図の方法について、その方法で作図ができる理由を説明する活動 など

このように、知識や技能の定着を図る授業以外では、アクティブ・ラーニングを通して学習をすすめていきます

4 ICT活用

・教科用図書の表紙にはQRコード表記してあり、書く単元の「数学ライブラリー」の動画による説明があります。

また、章末問題「学びをたしかめよう」「学びを身につけよう」の解答解説があります。

・「平図形」「空間図形」における図形の性質を認識する場面

・「データの活用」における、データの整理・分析を行う場面

第1学年 「理科」シラバス

〈指導計画〉

寄居町立寄居中学校

	学 習 内 容	学 習 目 標
1 学 期	単元1 植物の世界 ○生物の観察と分類 ・生物の観察 ・生物の特徴と分類の仕方 ○植物の体の共通点と相似点 ・花のつくりに着目すると ・葉や根のつくりに着目すると ・マツのなかまの花と種子 ・種子をつくらない植物 ○動物の体の共通点と相似点 ・骨のつくりに着目すると ・脊椎動物の特徴と分類 ・無脊椎動物の分類 ○生物の分類 ・植物の分類 ・動物の分類	○いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ○身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。 ○いろいろな生物とその共通点に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
2 学 期	単元2 身のまわりの物質 ○いろいろな物質とその見分け方 ・物体と物質 ・似ている物質の見分け方 ・金属の性質 ・質量を手がかりにした物質の見分け方 ○気体の性質 ・身のまわりの気体 ・さまざまな気体 ○水溶液の性質 ・物質がとけるということ ・溶液の濃さを表す方法 ・とけた物質のとり出し方 ○物質の状態変化 ・物質の状態と温度 ・状態変化に伴う物質の体積や質量 ・混合物の分け方 単元3 大地の成り立ちと変化 ○身近にある地形・地層・岩石を観察しよう ・身近にある地形・地層・岩石を観察しよう ○大地の歴史と地層 ・地層をつくる岩石からわかること ・化石からわかること ○火山活動と火成岩 ・火山の噴火 ・マグマの粘り気と火山 ・マグマからできる岩石 ○地震と大地の変化 ・地震発生 ・地震の揺れの伝わり方 ・地震が起こる仕組み ・ダイナミックな大地の変化 ○大地の躍動と恵み ・火山が噴火したら？大地震が発生したら？ ・大地の変化と人間の豊かな生活	○身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、物質のすがた、水溶液、状態変化を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ○身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現する。 ○身のまわりの物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。 ○大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、身近な地形や地層、岩石の観察、地層の重なりと過去の様子、火山と地震、自然の恵みと火山災害・地震災害について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ○大地の成り立ちと変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現する。 ○大地の成り立ちと変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

3 学 期	単元4 光・音・力 ○光の性質 ・光の進む道筋 ・光のはねか返り ・光を折り曲げる ・凸レンズのはたらき ・光と色 ○音の性質 ・音の伝わり方 ・音の大きさと高さ ○力のはたらき ・力とは何か ・力の大きさとばねの伸び	○身近な物理現象を日常生活や社会と関連づけながら、光と音、力のはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 ○身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズのはたらき、音の性質、力のはたらきの規則性や関係性を見いだして表現する。 ○身近な物理現象に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
-------------	--	--

※ 今後の新型コロナウイルス感染症対策によって、単元の順番の入れ替えが生じることもあります。

音 楽(1年)

1. 音楽科の目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

2. 学習の心構え

表現では・・・(歌ったり楽器を演奏したりする活動)

- ・まず気持ちを前面に出し、意欲的に演奏することが大切です。
- ・説明を良く聴き、アドバイスを素直に受け止めることにより上達します。
- ・課題意識を持ち、練習して克服していこうと努力することが必要です。
- ・合奏や合唱では、周囲と音色やリズムを合わせるように演奏することが重要です。
- ・パート練習やグループ練習では仲間と協力し合い、高め合うことが大切です。

鑑賞では・・・(CD・DVDや友人の演奏や先生の演奏を聴く活動)

- ・落ち着いた態度で、静かに注意深く聴く事が大切です。
- ・音や曲想の変化を感じ取りながら聴き、多くのことに気づくことが大切です。
- ・音楽を特徴付けている要素(旋律・リズム他)を感じ取り、言葉や文章で表現する力が必要です。

3. 授業の約束事

1 時間を守る

- ・休み時間に音楽室への移動を行い着席して待ち、チャイムと同時に授業を始めます。

2 忘れ物をしない

- ・教科書・ワーク・ファイル・筆記用具を必ず持参してください。

3 身だしなみに気をつける(服装・言葉遣い)

- ・音はその人を表します。心がけを良くして、美しい音を求めましょう。

4 積極的に表現する

- ・音楽は表現をすることに重点が置かれます。歌唱・器楽・鑑賞・創作など、自分の得意な分野を活かして表現力を磨き、能力を発揮してください。
- ・パート練習やグループ練習では、自分から進んで活動することが大切です。

5 集中して授業に臨む

- ・音楽の授業は1週間に1回です(時間割のB週は1週間に2時間の日もあります)。
限られた時間の中で実力が発揮できるように、毎時間集中して取り組んでください。

4. 学習教材

- ①教科書 ●中学生の音楽 1
主に1年生で使用します。
●器楽の教科書
3年間使用します。
- ②ワーク ●音楽の基本ワーク 1
音楽の基礎的な問題や楽譜や感想を書いたりするときに使用します。
- ③ファイル ●クリアブック
3年間使用し、授業で配布した学習プリントや楽譜を保管します。

5. 教育に関する3つの達成目標を具現化するための取組

- (1) 音楽活動の基礎的な能力を伸ばす。
(音楽の諸要素＜リズム・旋律・和声他＞を感じ取り、表現の工夫ができるようにする)
- (2) 音楽の豊かさや美しさに対する感性を育てる。
(音色や曲想の変化に気づき、音や音楽を知覚する能力を伸ばす)
- (3) 音楽表現を通して自己の表現力を高める。
(歌唱活動を通して、生活に必要な表現力を身に付ける)

6. 評価について

評価の観点	評価の内容	評価の方法
知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	・授業内での取り組み ・提出物（ワーク、プリント）の評価 ・定期テスト、実技テスト
思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・授業での表現力 ・提出物（ワーク、プリント）の評価 ・定期テスト、実技テスト
主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・授業内での取り組み

1 年間の授業の流れ

月	題材	教材名	学習内容
4	音楽の基本を身に付けよう	校歌 We'll Find The Way My Voice! ビンゴゲーム リズムゲーム	歌う姿勢や呼吸法を身に付ける 歌詞の内容や曲想を感じ取って歌う 音符や休符、記号を覚える リズムを創作して演奏する
5	曲想の変化を感じ取って聴こう	春一第1楽章ー 映画「ジョーズ」から 「ジョーズのテーマ」	曲を聴き、情景を想像し、言葉で表現する 楽曲や作曲者について理解する
6	曲のまとまりやハーモニーを感じ取ろう	主は冷たい土の中に Michel, Row The Boat A shore エーデルワイス My Voice!	他の声部を聴き全体の響きに気をつけて歌う リズム伴奏を工夫して表現する 基本的な拍子の振り方を覚える 強弱や速度を意識しながら楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じて指揮を振る
7	郷土の音楽に触れよう	日本の民謡	各地に伝わる伝統音楽の特徴を感じ取る
9	混声合唱の豊かな響きを味わおう	パフ 朝の風に クラス合唱曲	発声の基礎に気をつけ、響きのある声で歌う 正しい音程リズムで歌う 歌詞の内容を理解し、速度や強弱に気をつけて歌う パートの役割と全体の響きに気をつけて歌う
10			
11	日本の音楽に親しもう	箏曲「六段の調」 さくらさくら 尺八曲「巣鶴鈴慕」	尺八や箏の音の特性や音色の変化に関心を持ち、日本の情緒や曲趣を味わう 箏の音や奏法を体験する
	フレーズの特徴や詩と音楽の結びつきを感じ取ろう	浜辺の歌 赤とんぼ	歌詞の内容、背景にある情景や心情を感じ取る 言葉と旋律の関わりを感じながら歌唱表現を工夫する
12	曲の雰囲気を感知取ろう	魔王 My Voice!	楽曲や作詞作曲者について理解する 登場人物による旋律の雰囲気や歌い方の違いを聞き取る 場面による伴奏の変化を聞き取る 旋律の特徴を感じ取って歌う
1			
2	心をこめて歌おう	国歌・校歌 旅立ちの日に	式の持つ意味を感じ、1年のまとめの意味も含め響きのある声で合唱する
3	アジアの民族音楽に触れよう	アジアの各国の音楽	雅楽の楽器と似た楽器の演奏を通し、アジアの音楽を知る

[美術] (1年生)

1 学習のねらい (目標)

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2 学習の心構え

- ①授業に必要な道具をそろえ、チャイム着席を守る。
 - ②話を聞くとときは姿勢を正して静かに聞く。
 - ③楽しく、積極的に作品制作をする。
 - ④積極的に話し合い活動や発表、鑑賞活動をする。
 - ⑤最後まで根気強く制作に取り組み、作品の完成度を高める。
 - ⑥アイディアスケッチや作品などの提出期限を守る。
 - ⑦芸術家の作品や友達の作品から良さを見つけ、発想や技能を学ぶ。
 - ⑧協力して道具などの片付けを行い、責任を持って教室をきれいにする。
- 〈補足〉
- ①話をよく聞く。自分で挑戦した後、分からないことがあったら質問する。
 - ②どんな題材においても、最後まで完成させる。
 - ③お気に入りのもの、気になったものなどをスケッチする機会をつくる。
 - ④完成した作品を飾ったりなど工夫して保管する。(例えば実物保管や写真保管など)

3 評価の仕方

(1) 観点別評価について

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生みだし豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
評価方法		
①行動観察、発言、対話 ②途中・完成作品 ③定期テスト	①行動観察、発言、対話 ②アイディアスケッチ ③途中・完成作品 ④定期テスト	①行動観察、発言、対話 ②自己評価カード ③作品紹介・鑑賞カード

※観点別の評価は5段階で絶対評価をします。

Ⓐ：十分満足できるもののうち、特に程度が高い
B：おおむね満足できる ㉟：努力を要する

A：十分満足できる
C：一層努力を要する

(2) 評定について

評定は各観点の成績を総合したものと考えますので、以下のようにつけます。
まず、観点別評価のⒶ A B ㉟ Cを点数化します。

Ⓐ：5点 A：4点 B：3点 ㉟：2点 C：1点

1～5の評定における達成の度合いは以下の通りです。

5段階評定 (絶対評価)	段階	達成の度合い
	5	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」と判断されるもの
	4	「十分満足できる」状況と判断されるもの
	3	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
	2	「努力を要する」状況と判断されるもの
	1	「一層努力を要する」状況と判断されるもの

4 授業計画（学習内容と学習のねらい）

	題材名	学習内容	学習のねらい
1 学期	美術の学習をはじめよう（オリエンテーション）	作者の心情を読み取ろうとする作品の見方や感じ方	- 美術の学習を始めるにあたり、楽しく美術の活動に取り組む意欲と態度を養う。 - 作者の心情や表現の工夫を読み取る。
	デッサンにトライ！～色鉛筆を持つ手～	- 対象をよく観察して特徴を感じ取らせること - 手のバランスの取り方 - 鉛筆、色鉛筆などの材料の効果的な生かし方 - 参考作品や友人の作品の鑑賞の仕方	- 自分の手の形や質感をよく観察し、表現の工夫を考える。 - 材料の可能性やよさを追求し、工夫して表現する。 - 互いに作品を鑑賞し合い、見方や感じ方を広げる。
	風景画を描こう①～印象に残った風景～	- 季節や時間的な変化などを見つめ、主題を見出すこと - 表現意図に応じた構図の考え方 - 見通しをもった制作手順 - 作品に対する思いを説明する方法	- スケッチなどを通して、主題をもって活動に取り組む。 - 主題を基に表現を工夫して描く。 - 小学校の学習をふまえ、自分の意図する形に近づける。 - 作品に込めた思いを互いに発表する。
2 学期	小さないろどり～色彩について学ぼう～	- 色の三属性や色の感情など - 形体をとらえる立体の表現方法 - ポスターカラーの使い方	- 色彩の学習を通して、形が色によって印象を変えることを実感させる。 - 粘土やポスターカラーといった材料のよさを生かし、立体の表現方法や色彩の効果などを考える。 - 互いに鑑賞し、表現の工夫を味わう。
	漢字デザイン～文字を工夫する面白さ～	- 日常生活を楽しくしようとする美意識 - わかりやすく、美しい漢字デザインの構想の方法 - ポスターカラーの使い方 - レタリングの方法 - デザインの鑑賞の仕方	- 生活を美しく豊かにするためのデザインへの関心を高める。 - 目的や条件から美意識を働かせ、表現の構想を練る。 - ポスターカラーの素材を生かし、わかりやすさや美しさを工夫する。 - 作者の意図と表現の工夫を互いに説明する。
3 学期	2年生画面を構成してみようへ向けて～色々な技法、材料を使って～	- 身近なものから主題を見出すこと - 形のバランスや配色などの工夫 - 色鉛筆など、様々な素材の効果的な使い方 - ドリッピングなどのモダンテクニック	- 形や色彩を組み合わせた構成による表現に関心を高める。 - 身近なものを見つめ、主題を見出す。 - 素材や技法を生かした表現の能力を育て、見通しをもって表現する。 - 互いに鑑賞し、表現の工夫を味わう。

第1学年「保健体育科」シラバス

担当

1、保健体育科の目標

- ・自ら学習に取り組み、意欲的に学び、運動に親しむ生徒
- ・個々の課題を持ち、課題解決に取り組む生徒
- ・進んで心身を鍛え、技能を向上させることのできる生徒
- ・助け合いながら行動したり、安全に留意して行動のできる生徒

2、学習の心構え

＜体育授業の約束6か条＞

①チャイムであいさつ。号令にあわせ、心を込めて元気にあいさつ。

②絶対に忘れ物をしない。

（教科書・実技の本・ファイル・保健学習ノート・筆記用具など）

③学校指定の運動着を着用する。必ず教室で着がえて活動場所に行く。

※下着は白、ハイネックやインナーは不可。（部活動で使用するインナー類も体育授業では不可）

④やむをえず見学の際は、親の承認を必ず見せること（生徒手帳、または紙に書いてくる）。

※体調不良等の見学で、ジャージ着用を希望する者も、その旨を書いてくること。

※見学でもカードの記入・用具の準備や片づけ・その他やれる手伝いを進んでやること。

⑤毎時間自分のやるべきこと、本時の目標をしっかり持って臨むこと。

⑥種目に入ったら、係や当番が用具を準備しておく。

※1、授業道具の5点セットは、必ず袋に入れて教室の机の横にかけておく。

※2、ジャージは11月～3月まで着用可。それ以外は、教室で脱いで学習の場に行くこと。

※3、授業の記録が時間内にできないときは、休み時間等を使いその日のうちに記入すること。

※4、ウインドブレーカーは1月（球技Ⅱ～）から3月まで着用可。ただし、長ジャージを着用しても寒い場合のみ長ジャージの上に着用することを可とする。（ゲームや計測時には必ず脱ぐ）

3、保健体育科の評価の仕方

（1）各観点の評価項目と評価の方法について

	評価項目	評価方法
知識・技能	（知識） ①各種目の特性や学習の進め方を知っている。 ②ルールや審判の仕方、試合の運営、発表や鑑賞の仕方、安全な行動の仕方を知っている。 ③保健学習の基礎知識が身に付いている。 （技能） ①運動の基本的な技能が身に付いている。 ②自己の能力に応じて記録を伸ばすことができる。 ③課題解決のための効果的な練習ができる。 ④身につけた技能を試合や発表会・記録会に生かすことができる。 ⑤相手に応じて作戦を立て、試合ができる。	・定期テスト ・学習ノート ・学習カード ・教師による観察 ・技能(スキル)テスト ・試合、発表会
思考・判断・表現	①自己やチームの課題をつかんでいる。 ②目標記録や課題を設定している。 ③課題解決のための効果的な練習を工夫している。	・学習ノート ・学習カード
主体的な態度	①各単元に関心を持って、進んで取り組み、楽しもうとする。 ②互いに協力し、積極的に練習や競技、試合、発表を行おうとする。 ③授業の約束や競技のルールを守り、「公正な態度」で活動することができる。 ④自分や仲間の健康や、活動場所・用具・服装の安全を確かめて活動しようとしている。 ⑤遅刻をせず、学校及び体育授業指定の服装で活動することができる。	・授業開始時の点検 ・指導過程では、教師による観察 （チェックリスト） ・学習ノート ・学習カード

4、学習内容とねらい () 内の数字は、おおまかな授業時間数

	運動領域	種目	学習のねらい
1 学期	体育理論 (1)	「運動やスポーツの楽しみ方」について学習します。	
	体づくり運動 (8)	体ほぐしの運動 体力を高める運動	自分の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持って体ほぐしをしたり、体力を高めます。
	陸上競技Ⅰ (4)	短距離走・リレー	自分の能力に応じて基本的な動きや、効率のよい動きを身に付け、滑らかな動きで速く走ることができるようにします。
	球技Ⅰ (各7)	バレーボール ソフトボール	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を立て攻防のあるゲームができるようにします。
	水泳 (8)	クロール・平泳ぎ	自分の能力に応じて運動の技能を高め、速く泳いだり、続けて長く泳いだりできるようにします。
	保健 (4)	「健康の成り立ちと、疾病の発生要因」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身につけられるようにします。	
2 学期	体育理論 (1)	「運動やスポーツの楽しみ方」について学習します。	
	器械運動 (8)	男子 マット運動 女子 跳び箱運動	自分の能力に応じて運動の技能を高め、技が円滑にできるようにします。
	陸上競技Ⅱ (8)	長距離走	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高められるようにします。
	陸上競技Ⅲ (8)	走り幅跳び	自分の能力に応じて目標を持ち、競技したり記録を高められるようにします。
	武道 (8)	柔道	自分の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開できるようにします。
	保健 (6)	「心身の機能の発達と心の健康」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身につけられるようにします。	
3 学期	体育理論 (1)	「運動やスポーツの楽しみ方」について学習します。	
	ダンス (8)	創作ダンス	リズムに乗って体を動かしたり、感じを込めて踊ったりするとともに、作品を発表や鑑賞できるようにします。
	球技Ⅱ (各7)	バスケットボール サッカー	自分の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を立て攻防のあるゲームができるようにします。
	体づくり運動 (2)	体ほぐしの運動 体力を高める運動	自分の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持って体ほぐしをしたり、体力を高めます。
	保健 (2)	「心身の機能の発達と心の健康」について、考えたり、調べたりしながら、正しい知識を身につけられるようにします。	

技術・家庭（技術分野 1 年）

1 学習のねらい

技術・家庭科とはこんな教科です

技術・家庭科でめざすこと

【技術分野の目標】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料と加工、生物育成、エネルギー変換及び、情報の技術についての基礎的な理解を図り、技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関りについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決策を構想し、製作図に表現し、試作等を通して具体化し実践を評価・改善するなど課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 学習の心構え

特色ある学習

- 製作、整備、操作、実習や、実験、観察、見学、調査・研究など、それぞれの特徴を生かした適切な実践的・体験的な学習活動を行います。
- 生徒自らが課題を発見し、見方考え方を働かせ、意欲を持って追求し考え方を深め、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返します。
- コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を、積極的に活用します。
- 技術分野では、機械類、引火性液体、電気、火気などを取り扱って実習するため、安全の保持に十分留意するとともに、安全な行動を進んでできるようにします。

3 技術・家庭科の評価の仕方

(1) 評価の観点 (2) 観点ごとのポイント

評価の観点・方法

技術・家庭科は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

① 知識・技能

この観点は基礎的な技術について、その仕組みやそれらに係る技能の習得状況の評価するものであり、環境との関りや生活等の場面でも活用できる技術の概念の理解も評価します。

② 思考・判断・表現

この観点は技術を用いて生活や社会における問題を解決するための思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価するものです。

③ 主体的に学習に取り組む態度

この観点は粘り強い取り組む態度や、自ら学習に取り組みながら学習を見通し、より良い方向に組み立てようとする態度を評価するものです。

学習内容

「技術分野」及び「家庭分野」の2分野での構成になり合わせて評価します。技術分野の内容は「A材料と加工の技術」及び「Bエネルギー変換の技術」「C生物育成の技術」「D情報の技術」を行います。

4 3年間でこんな学習をします

(技術分野) () 内の数字は授業時数

第1学年	ガイダンス (2)	Cエネルギー変換の技術 (17) ・LEDライトの製作と改善を通して持続可能な社会について考えよう。	D 情報の技術 (18) ・情報を活用して生活にいかそう。 ・VBスクリプトで計測制御のプログラムを開発し健康チェックしよう。	合計35時間
第2学年	A 材料と加工の技術 (30) 机上を整頓する作品を作って身近な生活の問題を解決しよう		D 情報の技術 (5) VBスクリプトで計測制御のプログラムを開発し、問題解決の手順を知ろう	合計35時間
第3学年	B 生物育成の技術 (18) 環境にやさしい野菜作りを通して環境保全について考えよう。			合計18時間

(技術分野) () 内の数字は授業

5 「Cエネルギー変換」の技術のねらい

エネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、エネルギー変換の技術について基礎的な理解を図り、技能を身に付け、生活や社会エネルギー変換に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて適切かつ誠実にエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

6 「Cエネルギー変換に関する技術」の内容

【内容】

〈生徒が学習する項目〉

- (1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術
- (2) エネルギー変換の技術による問題の解決
- (3) 社会の発展とエネルギー変換の技術

7 「D情報の技術」のねらい

情報の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、技能を身に付け情報の技術と生活や社会、環境との関りについて理解を深め、生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、持続可能な社会の構築に向けて誠実に情報の技術を工夫創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとする。

8 「D情報に関する技術」の内容

【内容】

- (1) 生活や社会を支える情報の技術
- (2) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決
- (3) 計測・制御のプログラムによる問題の解決
- (4) 社会の発展と情報の技術

特に注意する内容

○情報モラルに関する内容。

昨今携帯電話（スマホ）の普及により、小学生、中学生の情報モラルに関するトラブルが多発している状況にあります。

W e bに参加するための最低限度のモラルを学習し、モラルハザードを引き起こさない生徒の育成に注力します。

○危険なW e bサイトの学習や実際の 情報被害の状況を学習し、被害にあわない生徒を育成し、また、情報モラルハザードの加害者にならない生徒を育成します。

9 学習内容（一部抜粋）

D情報の技術		Cエネルギー変換の技術	
時数	内容	時数	内容
17	「ガイダンス」 ・技術と私たちの生活を考える。 「技術の役割を考える」 「生活の向上に対する技術の活用を考える」 LEDライトの製作と改善を通して持続可能な社会について考えよう。 ・エネルギー変換方法 ・動力伝達のしくみ ・LEDライトの製作 ・社会と環境とのかかわり	18	情報を生活に生かそう。 ・情報手段の発達と変化する私たちの生活 ・コンピュータの基本的な構成と機能と基本操作 ・情報通信ネットワークの利用 ・インターネットの利用 ・情報モラルと知的財産 V Bスクリプトで計測制御のプログラムを開発し健康チェックしよう。 ・生活の中にある計測・制御 ・計測・制御システム ・処理の手順とプログラム ・社会と環境のかかわり

* 1年間を通して原則として技術と家庭科を各週交代で行い、2時間続きの授業の中で、情報の技術とエネルギー変換を1時間ごとに学習します。

技術・家庭科（家庭分野 1 年）

1 学習のねらい 技術・家庭科とはこんな教科です

技術・家庭科でめざすこと

【家庭分野の目標】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○生活と技術について基礎的な理解と図るとともに、それらに係る技術を身に付けるようにする。

○生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構築し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。

○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 学習の心構え 特色ある学習

○製作、整備、操作、調理などの実習や、実験、観察、見学、調査・研究など、それぞれの特徴を生かした適切な実践的・体験的な学習活動を行います。

○生徒自らが課題を発見し、意欲を持って追求し、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行います。

○コンピュータやタブレットなどの情報通信ネットワークなどの情報手段を、技術分野との関連を図りながら積極的に活用します。

○技術・家庭科では、機械類、刃物類、引火性液体、電気、ガス、火気などを取り扱って実習するため、安全の保持を十分留意するとともに、安全な行動を進んでできるようにします。

3 技術・家庭科の評価の仕方

評価の観点・方法

技術・家庭科は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

○知識及び技能

家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けているか評価します。

○思考・判断・表現

これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけているか評価します。

○主体的に学習に取り組む態度

家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしているか評価します。

〈評価方法〉

製作物、具体物、ワークシート、学習カード等の記述、論述、レポート、計画表、実践気力表の記述、

発言、行動観察、発表やグループでの話し合いの内容、定期テスト、実技テストから評価します。

4 学習内容 3年間の学習

学習内容

家庭分野の内容は「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の3つの内容から構成されています。1年生は、隔週で家庭分野を履修します。

3年間の学習でこんな学習をします。

第1学年 3 5 時間	【ガイダンス】【A 家族・家庭生活】【B 衣食住の生活 食生活】【C 消費生活・環境 消費生活】 1 時間 3 時間 2 4 時間 7 時間
第2学年 3 5 時間	【B 衣食住の生活 衣生活】【B 衣食住の生活 住生活】 【C 消費生活・環境 環境】 2 0 時間 8 時間 7 時間
第3学年 1 7. 5 時間	【A 家族・家庭生活】【生活の課題と実践】 まとめ 1 7 時間 0. 5 時間

5 学習する内容や学習のねらい

「A 家族・家庭生活」 4 時間

「A 家族・家庭生活」のねらい

課題をもって、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族、家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族・家庭生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとする。

学習する内容 4 時間 ○自分の成長と家族・家庭生活 ・今の自分とこれまで「ガイダンス」 ・わたしの生活と家族・家庭 ・家庭を支える社会 ・中学生にとって家族	ねらい 自分の成長を振り返ることを通して、自分の成長と家族や家庭生活の関わりがわかり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くことをねらいとする。
--	---

「B 衣食住の生活」 2 4 時間

「B 衣食住の生活」のねらい

課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、食生活、衣生活、住生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、それらの課題を解決する力を養い、衣食住の生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとする。

「食生活」のねらい

課題をもって、健康・安全で豊かな食生活に向けて考え、工夫する活動を通して、中学生に必要な栄養の特徴や健康によい食習慣、栄養素や食品の栄養的な特質、食品の種類と概量、献立作成、食品の選択と調理などに関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、食生活の課題を解決する

力を養い、食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとする。	
学習する内容 24時間 ○食事の役割と食習慣 ・食事の役割 ・健康によい食習慣 ○中学生に必要な栄養を満たす食事 ・中学生の発達と必要な栄養 ・栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 ・栄養バランスを目で見て判断 ○さまざまな食品とその選択 ・生鮮食品と選択と保存 ・加工食品の選択 ・食品の安全と情報 ○日常食の調理 ・調理の計画 ・おいしさと調理 ・肉の調理 ・魚の調理 ・野菜の調理 ○地域の食文化 ・地域の食文化 ・日本各地の郷土料理 ○献立づくり ・1日分の献立 ○持続可能な食生活 ・持続可能な食生活をめざして ・学習のまとめ	ねらい ○食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題をもって、食事が果たす役割や中学生に必要な栄養の特徴、健康によい食習慣に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、健康のために食習慣を工夫することができるようにする。 ○中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題をもって、栄養素や食品の栄養的特質、食品の種類と概量、献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、中学生の1日分の献立をくふうすることができるようにする。 ○日常食の調理と地域の食文化について課題をもって、食品の選択と調理、地域の食文化に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常食又は地域の食材などを生かした調理を工夫することができるようにする。

「C 消費生活・環境」 7時間

「C 消費生活・環境」のねらい 課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、身近な消費生活と環境についての課題を解決する力を養い、身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとする。	
学習する内容 7時間 ○家庭生活と消費 ・消費生活のしくみ ・家庭生活における収入と支出 ○購入・支払いと生活情報 ・いろいろな購入方法	ねらい ○金銭の管理と購入について、課題をもって、計画的な金銭管理の必要性について理解し、売買契約の仕組みや消費者被害の背景とその対応、購入方法や支払い方法の特徴に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、物資・サービスの選

・購入前に知っておくこと 売買契約 ・いろいろな支払い方法 ・情報を活用した上手な購入 ○消費者被害と消費者の自立 ・なくなる消費者被害 中学生の消費者被害 ・消費者を支えるもの ・消費者の権利と責任	択に必要な情報を活用して購入について工夫することができるようにする。 ○消費者の権利と責任について、課題をもって、消費者の基本的な権利と責任に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解を深め、自立した消費者としての責任ある消費行動を工夫することができるようにする。
---	--

※調理実習については、実習が可能になった場合、学級を分ける等十分な安全管理のもと実習することとします。

英語（１年）

4. 学習する内容や学習のねらい（Unit~5, 6~9, 10・11 ごとに Stage Activity でまとめの学習を行う。）

月	学 習 す る 内 容	学 習 の ね ら い
4	Unit0 Welcome to Junior High School	英語の音と文字を理解することができる。
	Unit1 New school, New Friends ・自分がふだんよくすることや、できることを伝えることができる。	I'm ~や You are ~、be 動詞の疑問文、否定文を表現することができる。 Can を用いて肯定文・否定文・疑問文を用いて自分ができることを表現することができる。
5	Unit2 Our New teacher ・身近な人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。	This is や That is を使った表現ができる。 What や How を用いて簡単な問答ができる。 他人の自己紹介を読んで理解することができる。
6	Unit3 Club Activities ・いつ・どこなのかをたずねたり、数をたずねたりすることができる。	When, Where, How many を用いた簡単な対話ができる。 I want ot を使い、したいことを言うことができる。 部活動に関する会話を読んで理解することができる。
7	Unit4 Friends is New Zealand ・相手に指示したり、時刻や好きなものをたずねたりすることができる。	What time, What +名詞を用いて、簡単な問答ができる。 相手に英語で指示を出すことができる。 ニュージーランドの学校生活について理解できる。
	Unit5 A Japanese Summer festival ・行った場所や、そこで楽しんだことなどについて話すことができる。。	前置詞を用いて、場所等を表すことができる。 like や play などの一般動詞を使え、一般動詞の疑問文、否定文を表現することができる
9	Unit6 A Speech about My Brother ・自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。	I や三人称単数現在を使え、疑問文、否定文を表現することができる。 スピーチ文を読んで内容を理解することができる。
10	Unit7 Foreign Artists in Japan ・自分と相手以外の人について話したり、どちらなのか、だれのものかをたずねたりすることができる。	him や her などの代名詞を運用することができる。 Which や Whose を用いた簡単な対話ができる。 日本の伝統文化に関する英文を読んで理解することができる。
11	Unit8 A Surprise Party ・今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。	現在進行形の文書を理解し、日常生活について表現できる。 When や Which を用いた簡単な対話ができる。
12	Unit9 Think Globally, Act Locally ・したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。	自分がしたいことについて言えることができる。 相手の表情を見て、感情等を表現することができる。 国際協力について理解して、自分ができることについて考えを深めることができる。
1	Unit10 Winter Vacation ・過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。	一般動詞の過去形の文を理解し運用できる。 不規則動詞の過去形の肯定文・否定文・疑問文を理解し運用できる。 アメリカの文化や日常に興味・関心を持ち、日本との文化の違いを理解する。
2	Unit11 This Year's Memories ・過去の状態や気持ち、過去のある時点にしたことについて説明することができる。	be 動詞の過去形を用いて、過去の状態について言うことができる。 There is/are ~.を用いて、物の存在について言うことができる。 1年の思い出に関する英文を読んで、自分の1年の思い出を書くことができる。
3		

英語

1. 学習のねらい

英語科の目標

英語学習を通じて「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力」の育成を目指します。

そのために…

- 聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションにおける技能を身に付ける。
- 目的や場面、状況に応じた外国語を活用する力を養う。
- 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

こんな学力を

- はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、話の概要や短い説明の要点を捉えることができるようにする。
- 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章を読んで、概要や要点、必要な情報を捉えることができるようにする。
- 関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題について即興で伝え合ったり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
- 関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題についてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
- 関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題についてまとまりのある文章を正確に書くことができるようにする。

2. 今年度、特に力を入れて指導したいこと。

- (1) 英語の基礎学力の向上を目指します。
繰り返し学習を行うことにより、基礎の定着（単語のスペルや語順等の理解）を図ります。
- (2) 家庭学習の充実を図ります。
課題を与え、家庭学習に取り組めるようにします。
- (3) 英語のコミュニケーションの能力を伸ばします。
日々の授業で、目的や場面、状況に応じた英語を聞く力、読む力、話す力（やり取り）、話す力（発表）、書く力をバランスよく伸ばします。

3. 英語科の評価の仕方

(1) 評価の観点…3つの観点をA, B, Cで評価します。

3 観 点	①知識及び技能（聞き、読み、話し、書いて理解する力） ②思考力、判断力、表現力等（英語を活用する力） ③学びに向かう力、人間性等	「設定した評価規準」（別掲）について A…十分に達成している。 B…おおむね達成している。 C…達成がやや不十分である。
-------------	--	---

(2) 評定の対象となるものと評価の方法

3 観点	対象となる活動	評価の方法
①知識及び技能	定期テスト、単元テスト、パフォーマンステスト ワークシート、授業中の音読活動など	達成度（得点）を評価 教師による観察評価→点数化
②思考力、判断力、 表現力等	定期テスト、単元テスト、パフォーマンステスト ワークシート、授業中の表現活動など	達成度（得点）を評価 教師による観察評価→点数化
③学びに向かう力、 人間性等	ワークシート、振り返りカード 教科書ワークの取り組み 課題プリント、ノート作成など	教師による記述内容の観察 達成度（得点）を評価

<通知票の内容と見方について>

令和5年度

通知票は、学校における生徒の学習活動や生活の様子などを家庭に連絡し、生徒に対する共通理解と教育効果を高めるための一つの手だてとなるものです。したがって、通知票の内容は、生徒の可能性を伸ばす観点から、生徒一人一人のよい点を認め、そのよさを引き出し、意欲を持たせるものとなるよう配慮しております。教科の評定のみにとらわれることなく、通知票の内容全体をよく理解していただき、家庭において適切な御指導をお願いいたします。

1 学習の様子について

単に知識・技能だけを評価するものではない

主体的に学習に取り組む態度や、基礎的・基本的な知識及び技能の習得、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等が育まれているかを評価しています。

作業・発表等

作品・レポート
ノート・ワーク等

① 各教科の評価の観点（道徳については、文章による評価を行う）

全教科で、右の3観点で評価します。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
--------	-------------	---------------

それぞれの観点項目に対して、**㉠・A・B・㉡・C**の5段階で**絶対評価**をします。

段階	達成の度合い
㉠	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
A	「十分満足できる」状況と判断されるもの
B	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
㉡	「努力を要する」状況と判断されるもの
C	「一層努力を要する」状況と判断されるもの

※授業に1度も参加していなかったり、テスト未受験や提出物未提出など、評価不能の場合は、斜線（/）が記載されます。

※絶対評価とは？
各教科の評価の基準と学習目標にしたがって、達成の度合いをもとに人数制限等はなく評価する方法。

ただし、通知票や指導要録には、㉠とAの区別は無く、Aと表記されます。㉡とCについても同様です。

この観点別評価を数値化すると以下ようになります。

㉠:5点 A:4点 B:3点 ㉡:2点 C:1点

② 各教科の学習状況の評定

1～5の評定における達成の度合いは、以下の通りです。

5段階評定
(絶対評価)

段階	達成の度合い
5	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
4	「十分満足できる」状況と判断されるもの
3	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
2	「努力を要する」状況と判断されるもの
1	「一層努力を要する」状況と判断されるもの

評定の導き出し方は、以下の表の通りです。観点別評価の数値をもとにしています。

組み合わせ	合計点	評定	組み合わせ	合計点	評定	組み合わせ	合計点	評定
㉠㉠㉠	15	5	㉠AC	10	3	㉠CC	7	2
㉠㉠A	14	5	㉠BC㉡	10	3	A㉡C	7	2
㉠㉠B	13	5	AA㉡	10	3	BBC	7	2
㉠AA	13	5	ABB	10	3	B㉡㉡	7	2
㉠A㉡	12	4	㉠BC	9	3	ACC	6	2
㉠AB	12	4	㉠㉡㉡	9	3	B㉡C	6	2
AAA	12	4	AAC	9	3	㉡㉡㉡	6	2
㉠A㉡	11	4	AB㉡	9	3	BCC	5	2
㉠A㉡	11	4	BBB	9	3	㉡㉡C	5	2
㉠BB	11	4	㉠㉡C	8	3	㉡CC	4	1
AAB	11	4	ABC	8	3	CCC	3	1
			A㉡㉡	8	3			
			BB㉡	8	3			

<通知票・指導要録における注意点>

「AAA」を例に記述します。

通知票・指導要録では④④④、④④A、④AA、AAAは、4パターンともすべてAAAと記述されます。したがって、AAAでも5となる場合と、4となる場合が存在します。AAAで5となっていたら、④④④、④④A、④AAのいずれかであったということです。そしてAAAで4となっていたら、④は無くAAAであったということになります。

AAA以外については、右の表を御参照ください。

通知票・指導要録の表記	評価と組み合わせ
AAA	5 … ④④④, ④④A, ④AA 4 … AAA
AAB	5 … ④④B 4 … ④AB, AAB
AAC	4 … ④④C, ④④C, ④AC 3 … ④AC, AAC, AAC
ABB	4 … ④BB 3 … ABB
ACC	3 … ④CC, ④CC, ACC 2 … ④CC, ACC, ACC
BBC	3 … BB 2 … BBC
CCC	2 … CCC, CCC 1 … CCC, CCC

3

総合的な学習の時間の評価

目標	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2)実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3)探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。		
学習状況	観点項目別評価に基づき、意欲や態度・進歩の状況を課題設定から発表までの過程を踏まえて評価し記入します。		
観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等

4

特別活動の記録

校内生活を中心に記録し、事実を記入します。

学級での係 学校行事での実行委員等 奉仕的活動等 所属の委員会
所属の部活動（役職） 生徒会役員 大会・展覧会等の表彰 その他

事実
記録

2 行動について

学校生活の様子をとらえ、下記の項目の趣旨にしたがって、学期ごとに絶対評価をします。

内容を十分達成している場合にのみ、○をつけます。

基本的な生活習慣	礼儀正しく、規律を守り、調和のとれた生活を送ることができる。
健康・体力の向上	心身の健康の保持増進と体力の向上に努めている。
自主・自律	自ら考え、正しく判断し、自主的に行動できる。
責任感	自分の役割を自覚して、誠実に取り組むことができる。
創意工夫	探究心をもち、進んで新しい考えや方法を見つけようとする。
思いやり・協力	思いやりと感謝の心をもち、協力してよりよく生きていこうとする。
生命尊重・自然愛護	自然を愛護し、自他の生命を尊重することができる。
勤労・奉仕	勤労や社会奉仕の尊さを知り、進んで係の仕事や奉仕活動を行うことができる。
公正・公平	他者の意見に左右されることなく、公正・公平な態度をとることができる。
公共心・公德心	きまりを守り、公共物を大切にします。

3 出欠席等の記録

◇学期毎に、出席・欠席・遅刻・早退等をお知らせします。

4 総合所見

※学校から
保護者へ

◇学級担任から「学習全体を通して見られる特徴」「学習の進歩が著しい教科とその状況」「学校生活全体から見られる特徴」「行動の状況の進歩が著しい状況」等、家庭に連絡したいこと、担任からの励まし・願い、個人の成長などを記入します。

5 通信欄

※保護者から学校へ

◇家庭での生活の様子や、学校へ連絡したいこと、学校への要望などをお書きください。

6 道徳

◇特別の教科道徳の評価について、生徒一人一人の良い点や可能性、進歩の状況について、文章で評価します。

【その他】新型コロナウイルス感染拡大防止等の影響により、予定されていた学習活動ができずに評価不能（／）となる観点がある場合があります。御了承ください。